

幹部

ご挨拶

学長 平林春行



同窓生の皆様におかれましては、日頃何かと本学教育にご支援とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

令和元年度も昨年度に引き続き、学生生活がより豊かになるように環境整備に取り組んでおり、食堂のリニューアル、トイレの第二次改修工事(ウォシュレット装置付き様式トイレ、手洗いの温水化など)を終え、また、コンビニエンスストアさんをお願いをして飲料や菓子類のみならずいろいろなラインナップを取りそろえた自動販売機(アイスクリームの販売機もある)の設置や移動式販売等を行っていただいています。

次に、令和2年度から看護学専攻とリハビリテーション学専攻作業療法学課程の定員を10名ずつ、100名と30名に増やす予定です。しかしながら、一方で残念なことに、創立当初の「国際人間学科」から外国人留学生の受け入れを推進し教育を行ってきた、現「国際人間学専攻」を、諸般の事情により令和2年度の卒業生の送り出しをもって幕を閉じることといたしました。同窓生のみならず多くの方々からご支援とご協力をいただき一定のご評価をいただいていたのですが、このような結果になりますことに何卒ご理解を賜りご容赦くださいますようお願いいたします。

本学は今年度で創立から二十二年を数えることとなります。多くの短期大学の中でも大変若い短期大学です。まだまだこれから歴史を重ね多くの卒業生を輩出し社会に貢献して行きたいと願っています。ところが、今後十八歳人口が急激に減少して行き、およそ十年後には現在の三分の二ほどになるということですから、短期大学のみならず大学を始め多くの高等教育を行う学校が消えていくこととなります。つまり、(新年早々に暗い話をして恐縮ですが、)学校にとって大恐慌時代に突入していると言っても言い過ぎではないと思います。

しかしながら、そのような状況に入り進んでいるとしても、私たちの白鳳短期大学はその十八歳(十八歳だけではありませんが)の若者たちから選ばれ支持される短期大学にならなければなりませんし、母校が無くなってしまうことは誠に寂しく残念なことです。何としてでもこれを阻止しなければなりません。その為には、四年制大学、専門学校等他の学校に無いものを持たなければならないと思うのです。

同窓生のみなさん、本学の魅力とは何でしょうか。これからの白鳳短大には何が必要でしょうか。改めて同窓生の皆さんに問いかけ、ご意見をいただきたいと思えます。そのようなご意見を大切に受け止め形にしながら存続でき得るものを持ち、一層の努力をしてその輝きを放ちたいと思えます。今後とも、お忙しいと思えますがぜひ同窓会の催し等に積極的にご参加くださり、ご意見と激励のお言葉をいただけましたら幸甚に存じます。よろしくお願いいたします。

卒業生のみなさんへ

副学長・こども教育専攻長 西浦将芳

卒業生の皆さん、それぞれの舞台で大活躍されていることと思います。副学長・こども教育専攻長を務めている西浦将芳です。よろしくお願いいたします。

さて我が白鳳短期大学は2019年度に創立22年目を迎えることができました。これは創立当初から本学教育に関わっていただいた多くの皆さんや卒業生、学生のおかげと感謝しております。

現在、国内を見れば少子高齢化が止まらず18歳人口が大学入学定員と同程度にまで落ち込むという所謂2018年問題が日本全体に重くのしかかっています。今のところ有効な手だてを打ち出せてはおりません。

世界に目を向ければ民族、宗教をめぐる対立がとどまらず内戦状態に陥っている地域が複数存在します。またそれらの地域から戦乱を逃れて周辺諸国に流入する「難民」が大きな国際問題となっています。このような混沌とした世界情勢のなか日本は高いモラルと寛容を世界に示し存在感を増していかなばなりません。

本学では建学の精神のなかで「人間とは何か」「自己とは何か」という真摯な問いかけと、「自己をみつめ、他者を知る」真の国際人の育成を謳い上げております。今こそ「人間とは何か」という問いかけを探求し、人間はどうあるべきか、人間はどう生きねばならないのか、自己の在り方を真摯に見つめ、幅広い視野で物事をとらえ変化に柔軟に対応できる適応力が求められている時代といえます。本学が「総合人間学」のもと、各専門分野の専攻を配しているのも「人間」こそ原点という思いに困っています。本学は専門的な知識、技能のみならず、国際的な感覚、そして人として、豊かな「心」を持った人材をこれからも大切に育ててまいります。

こども教育専攻卒業生の皆さん、今ほど幼児教育に国民の注目と期待が集まっている時代は過去になかったでしょう。白鳳短期大学の卒業生としての誇りを胸にこれからも皆さんの活躍をお祈りしています。そして毎年卒業していく後輩をよろしくお願いいたします。



ごあいさつ

副学長 中山 智子

白鳳短期大学同窓生の皆様におかれましては、益々お元氣でご活躍のことと思います。

私は、医療系の専攻で副学長として教育しております。医療系の専攻は(看護学専攻・地域看護学専攻、助産学専攻・理学療法課程・作業療法学課程・専攻科理学療法・言語聴覚学課程)であります。



この医療系は共に連携を図り地域に貢献するという重要な役割があります。積み重ねてきた本校の歴史とともに、益々の発展、成長を遂げたいと考えております。本校の特徴である総合学科と専攻科、特色である3年(総合人間学科)プラス1年(専攻科)内部進学制度をますます充実させ、より強力なものへと発展させたいと考えております。

実習病院を訪ねますと、多くの卒業生をお見かけします。その堂々たる活躍ぶり、その姿は自信に満ちあふれ、その成長に驚きと大きな感動を覚えました。

本校の教育がめざす人間力を中心に考える力を大切に「国家資格を得る」という目標に向かって在學生は、日々努力をしています。教育者として、可能性のある学生とのかかわりからどのような時、どのような場面でも常に「教育にならなければいけない」と考えることを実践し継続したいと考えます。この考えをもとにクリティカルに考える力を養い、社会に貢献できることを教育の目標として進んでまいります。

卒業生の皆様とともに教育できる日が来ることを楽しみにしております。

皆様方の益々のご発展を心より祈っております。

同窓会会長挨拶

こども教育専攻卒業 同窓会会長 山本寿々音

白鳳短期大学同窓会の会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は同窓会活動に深いご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

今年度、同窓会会長を務めさせていただきます山本寿々音と申します。現在は、奈良県内の小学校で特別支援学級の担任として勤務しております。4月当初は子どもとの関わり方や特別支援学級での個別指導の工夫など分からないことが数えきれないほどあり、不安な日もありました。しかし、子どもたちと関わっていくなかで、一人ひとりの個性に気づき、その個性を大切にしながら日々指導にあたることができています。また、先輩の先生方も仕事内容や個人的な話もして下さるのでとても働きやすく、悩みや相談をすぐに話すことのできる環境にあり、日々感謝しています。また、小学校の現場でも大学で学んだことがたくさん役に立つので、これからも大学での学びを生かし、頑張っていきたいと思っています。

もうすぐこの小学校に勤めて1年になります。いろいろなことがあるとは思いますが、子どもたちとともに自分自身も成長することのできる教師を目指し、日々精進してまいりたいと思います。

末筆ながら、同窓会会員の皆様の益々のご活躍、ご健勝と母校白鳳短期大学の益々の発展をお祈り申し上げます。

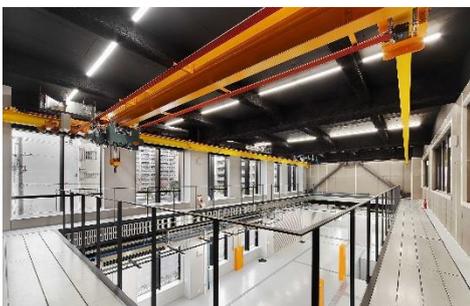


連携校

大和大学

日本有数の総合大学をめざして、2021年4月「社会学部」開設予定！

JR大阪駅から9分、吹田駅下車すぐという関西で最もアクセスに恵まれた環境に開学した大和大学。教育学部、保健医療学部の2学部からスタートし、2016年には政治と経済を横断的に学ぶ西日本唯一の政治経済学部を開設しました。2020年4月には理工学部を新設。数理科学、機械工学、電気電子工学、情報科学、建築学の5分野で未来を創造していきます。さらに、2021年4月には社会学部を開設予定です。社会学コース、メディア情報学コース、社会心理学コースの3コースを設置するとともに最新設備が整う学部棟を新たに建設。それに伴うキャンパスの大幅拡張工事がまもなくスタートします。どうぞ、今後とも大和大学にご注目いただくとともに、いっそうのご声援を賜りますようお願いいたします。



実習工作室

西大和学園中学校・高等学校

本校は、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されており、大学生にならないと知ることができない世界に踏み込み、自らの研究成果を論文にまとめ、東京大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)等の先生方の力を借り、様々な課題にチャレンジしている。近年、生徒たちの研究成果が高く評価されるようになってきた。生徒たちは最先端の科学に向き合い、その内容を多角的に、主体的に捉え、その研究内容を未来の国際社会のために活かす覚悟で取り組んでいる。

また、世界を舞台に活躍するグローバルビジネスリーダー育成を目的とした「アクションイノベーションプログラム(AIP)」が始まった。2014年に文部科学省指定された「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」をさらに進化させ、イノベーション創発人材を育成する。海外探究プログラムやリーダー養成プログラムで国際人として素養を備えた上で、リーダーとしての資質を身につける。様々な業界のトップランナーの生き様や考え方に触れるAIセミナー(トップランナー講義)では、かつて経験したことのない強烈な刺激を受け、AI研究ではビジネスにおける分析の視点やフレームワークを習得する。英語で行うプレゼン能力をさらに磨き、グローバルリーダーとして着実にその力をつけている。

模擬国連では全国大会出場を重ね、5年前に優秀賞を受賞した世界大会に出場を再び実現しようとしている。

中学校では、本校独自の英語教育が実を結び、中1の体験学習、中2の探究プログラム「クエスト」そして、中3の卒業研究を通して、論理的思考力のみならず、探究心、科学的リテラシーの向上をめざし、高校のSSH、AIPへとつなげている。

こういったグローバルな活動は、生徒たちの将来のビジョンを明確にし、目指す大学への情熱を生む。1990年に初めて東京大学に合格してから、94年には6名、2000年には21名、2017年には35名が進学。今年度は過去最高となる42名が東京大学に進学し、関西では灘高校に次ぐ人数となった。また、近年、東京大学を目指しつつ、ハーバード大学などの世界トップ大学・大学院で学ぶ必要があると感じている生徒が増えている。

知識を入れ、運用し、もっともっと学校の外で学び、学校の外からも多くの指導者を招き、主体性を持って、多様な人々と協働できる人材を育てていく西大和学園の改革はまだまだ続く。



西大和学園カリフォルニア校

白鳳短期大学同窓生の皆さん、こんにちは。海外教育センター企画の専攻別のアメリカでの研修に参加された方は、NAC 附属機関の海外教育センターでも、関わらせてもらっております。

白鳳短期大学の同窓生の活躍と大学の躍進ぶりを多くの先生方から聞くにつけ、遠く離れたロサンゼルスでも大変喜んでおります。

それではこの場をお借りして、私たちの学校 NAC (Nishiyamato Academy of California) の近況について紹介させていただきます。本校は、創立 26 年目のアメリカ西海岸唯一の文部科学省認定の「私立全日制日本人学校」です。学校はロサンゼルス空港から車で南に 30 分の距離です。ここロサンゼルスの日本人コミュニティでは、知らない人がいないまでに成長し、当地における日本人教育の一翼を担っております。この地域は日本人がとても多く在校生のほとんどがこの地域の日系企業の駐在員の子供たちです。幼稚園、小学校、中学校の 13 学年で約 160 人の子供たちが在籍しております。また 2002 年より土曜補習校を開校し、当初 6 名だった子供たちが、この 4 月には約 660 名になり全日制、土曜補習校合わせ 800 名を超える大所帯になり、学校全体が活気に満ち溢れています。また、6 年前にサンノゼ(シリコンバレー)地域にも幼稚園が開園しました。NAC では、子供たちの個性を伸ばし、豊かな人間性と感性を育み、思いやりのある真の国際人の育成を目指すことを教育目標として日々懸命に取り組んでおります。これからもこのカリフォルニアで、日本の白鳳短期大学の同窓生および現役学生の皆さんに負けないようにがんばる子供たちを育てていきたいと思っておりますので、白鳳短期大学の皆様方には、今後とも暖かいご支援とご声援を賜りますよう、何卒、宜しく願い申し上げます。

最後になりましたが、冒頭で述べさせていただきましたとおり、NAC は海外教育センターを併設しており、白鳳短期大学の学生の皆さんの海外研修プログラムの企画・運営を行っております。ではまた、海外研修等でお会いできることを楽しみにしております。



専攻長

卒業生のみなさんへ

国際人間学専攻 専攻長 辻田真智子

卒業生のみなさん、お元気ですか。日本では、今年度で「留学生 30 万人計画」もほぼ達成の見込みということもあり、開学時から留学生を受け入れてきた白鳳では、その役目を終えようとしています。現在、留学生だけでなく、就労者、技能実習生など日本に住む外国人はどんどん増えています。また、今年は特定技能という新しいビザも加わり、今後ますます増えていくと思われれます。卒業生のみなさんは、そのような時代の変化の中で、しっかりと日本での自分の居場所を築き、日本人と、新たに来日する外国人の間に立ち、活躍していることと思います。また、自国に戻り、今后来日する人々の助けとなっている人も多いと思います。白鳳で日本語と日本文化の知識を身につけたみなさんは、今後も活躍の場が広がっていくはずです。国際人間学専攻は来年でなくなってしまうますが、みなさんが世界中で活躍し続けることによって、その名はずっと残ります。これからもぜひそれぞれが白鳳卒業生代表としてがんばってください。みなさんの活躍を応援しています。



卒業生のみなさんへ

看護学専攻 専攻長 諸喜田美恵

白鳳短期大学同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと思います。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

看護学専攻はこれまで 13 期生まで卒業してくれました。卒業生の皆様が活躍されている近況報告は多くの施設様から届いており、その姿は看護師のプロとして成長し輝いておられる様子がうかがえました。卒業生の皆様の存在は、在学生にとってもあこがれであり目標となっております。つい先日も、卒業生が近況報告を兼ねて遊びに来てくれました。卒業生達は看護のプロとして、そして母として頑張っている報告をしてくれました。母校に立ち寄りこれまで培った看護を語りに学校にきてくれることは本当にうれしい限りです。

現在白鳳短期大学看護学専攻の教員たちは、人間力と看護を考える力の育成を目指し、学生と共に看護学を追究しております。母校を懐かしく思い出していただけたら、ぜひ皆様が培った看護を語りに学校に立ち寄ってください。教員一同楽しみに待っております。



卒業生のみなさんへ

リハビリテーション学専攻 理学療法学課程 専攻長 高橋秀行

本年度より理学療法学課程の専攻長代理に就任しました高橋秀行と申します。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

卒業生のみなさん、元気になっていますか。実習訪問をしていると、卒業生に出会う機会が本当に増え、OB・OGが増えてきていることを実感しています。また、卒業生の活躍を施設の先生方から聞かせてもらうことも非常に多く、みんなの成長を感じることは大変嬉しく頼もしく感じている今日この頃です。学会や研修会で出会った時は、是非近況を教えてください、楽しみにしています。

さて、2020年度から養成施設指定規則の一部が改正され、時代の変遷に合わせたカリキュラム、教育に変化してきています。我々理学療法士に求められるニーズも多様化され、個々の成長、チームとしての力が問われる時代になってきました。私も理学療法士になろうと思った初心を忘れず、みなさんと共に成長し続けていきたいと思えます。未来を想像しながら、そして社会に求められるニーズを感じながら共に頑張っていきましょう！



卒業生のみなさんへ

リハビリテーション学専攻 作業療法学課程 専攻長 西井正樹

季節の移り変わりが感じられる頃になりました。白鳳短期大学同窓生の皆さまにおかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。今年度より専攻長に就任いたしました西井正樹と申します。

早いもので、作業療法学課程を設置してから4年が経とうとしています。この間にも、専攻科の作業療法学課程も設置されました。今年度をもって、1期生すべてが社会に巣立って行ってくれました。作業療法学課程では、病院施設での実践力のほかに、社会で役立つ人間力を養ってきました。単に、臨床現場で作業療法ができるだけでなく、チーム医療の一員としてクライアントとともに味のある作業療法を行ってください。白鳳短期大学で学んだ心を大切に、これからも活躍して行ってください。



卒業生のみなさんへ

専攻科リハビリテーション学専攻 言語聴覚学課程 専攻科長 成田 亜希

みんな、元気にはしていますか？ 在学生在が実習でお世話になっております。後輩育成のため一生懸命に指導をしてきている姿には感動します。ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

言語聴覚学課程ではダブルライセンスの卒業生も多いですが、臨床ではそれが生きていますか？2領域の知識・技術でしっかり患者様に寄り添ってくださいね。また、社会人経験があり入学してくれた卒業生は、広い視野で活躍できていますか？知恵と人間力でも勝負してくださいね。

是非在学生のところに来て、臨床の話をたくさんしてあげて下さい。卒業生が学校に来ることが一番嬉しいです。

今年の卒業生へ もうたくさんの患者様を担当させて頂いていますよね。「早くいい治療ができるようになりたい！」と焦っているでしょうね。まずは先輩のマネをして下さい。答えはそこにあります！「患者様のために」ではなく、「患者様と共に」歩んで下さいね。



専攻科地域看護学専攻修了生のみなさんへ

専攻科地域看護学専攻 専攻科長 齋 素代

2022年度から保健師国家試験受験に必要な単位数が現行の28単位から31単位となる予定です。この背景には人口や疾病構造の変化や療養の場の多様化、地域医療構想や地域包括ケアシステムの推進等があります。新たなカリキュラムは、公衆衛生看護学分野で2単位、保健医療福祉行政論分野で1単位の単位増となり、疫学データ等を用いて地域をアセスメントする能力や施策化能力の強化をめざしています。

カリキュラムの変更は、看護師のカリキュラムにおいても行われます。看護の対象や療養の場の多様化に対応できるように、現行の「在宅看護論」は「地域・在宅看護論」に名称変更され、内容も充実されます。つまり、今まで保健師のカリキュラムで学習していた地域看護の内容が看護の必修カリキュラムとなり、今後は全員が地域看護を学んだ看護師となります。そこで改めて、保健師の専門性が問われることにもなります。

看護職を取り巻く状況は刻々と変化しています。修了生のみなさんも、刻々と変わる状況をキャッチしつつ、今一度、保健師の専門性について考えてみてください。今後の活躍を期待しています。



卒業生のみなさんへ

専攻科助産学 専攻長 湯川竹子

令和となり、新しい時代がやってきたと感じる毎日です。

出生数は 92 万 1000 人から 2019 年は 87 万人を下回る勢いで減少してきています。

初産平均年齢は 31 歳となり、さらに高齢妊産婦は加速してきました。

共稼ぎでの育児や核家族化、多様な家族構成、外国人の増加など多様な考え方、文化や生活様式の変化、SNS の拡散、流通の変化、機能的で便利な生活や育児グッズなど進歩と変化が著しいと感じます。

今年、大病院では助産師採用ばかりでなく、看護師で採用となった学生もいます。

いよいよ病院では助産師職が飽和状態になってきている予感がしました。

性と生殖の専門家として、助産師として求められることは何なのか。専門職として発揮できることは何かをしっかりと考えて、色々なところで活躍を期待しています。



卒業生

看護学専攻 五十嵐帆乃香

私は小児専門病院に勤めて2年目になります。主に先天性心疾患の術後の管理を行う集中治療科にいます。初めて病棟に入ったときは、「こんな重症なところで私はやっていけるのだろうか」と思いました。看護師だけでなく、医師や多職種と協力し患者さんが少しでも早く回復できるように日々考えています。1年目で初めて術後当日を受け持ちした患者さんが、2回目の当日にご家族さんから「五十嵐さんが今日担当ですね。安心しました。」と数か月ぶりに再開したご家族さんから言われました。私自身初めて術後当日を受け持った子だったため印象に残っていましたが、そのご家族さんに覚えてもらったことが嬉しかったです。小児看護の対象は子どもだけではなく、その家族も含めた看護が大切であると改めて感じました。子どもの成長していく姿、元気になる姿をみてその子の本来の姿を感じています。子どもの笑顔は私にとってやりがい・励みになっています。これからもたくさんの患者さんやご家族さんに少しでも安心感を与えられる看護師になれるように、頑張っていきたいと思えます。



こども教育専攻 古田 和希

私は、四月から、大阪市の公立幼稚園で、四歳児の担任として働いています。私の園は、四歳児と五歳児の二年保育で、園児数も少なく、私のクラスは子どもが16人しかいません。しかし、人数は少ないですが、一人一人の性格や個性を理解し、子どもの育ちを支えることの難しさを、日々痛感しています。4月に、子どもたちと入園式で出会い、一緒に毎日を過ごす中で、少しずつ分かってきたこともありましたが、まだまだ分かっていないことばかりです。子どもの気持ちに寄り添ったり、子どもがやってみたい環境をつくることができるようにしたりなど、まだまだ保育者として、努力していかなければことがたくさんあります。今年度の経験を生かして、来年度以降も頑張っていきたいと思えます。そして、子どもたちとの出会いや、地域の人とのつながりを大切に、子どもたちと楽しい日々を過ごしながら、なりたい保育者像に近づけるようにしたいです。また、四月に入園してくる子どもたちとの出会いが楽しみです。



私は本当に白鳳に入ってよかったと感じています。学校では、日本語はもちろん、日本のビジネスマナーや日本人とのコミュニケーションの取り方などを学びました。これ以外にも茶道、華道、日本事情、国際観光学などを学び、日本の文化を知り、国際的な視野を持てるようになりました。また、色々な国の友達と出会い、異文化を理解し、様々な価値観を知りました。こういう貴重な経験は白鳳でしかできなかったと思います。

白鳳を卒業後は、ミキハウスに勤めています。職場では日本人のお客様だけでなく、海外のお客様にも接客して、ミキハウスの商品の良さを伝えています。白鳳で学んだビジネス知識など全てのことが職場で活かされています。これからも日本でしっかりと努力していきたいと思っています。

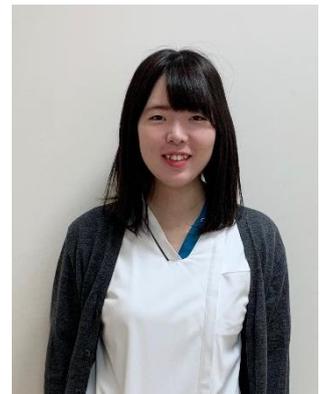
私にとって、白鳳はいつでも戻りたいと思える第二の我が家です。大学生活をこの白鳳で送ることができて本当に幸せでした。



リハビリテーション学専攻 理学療法学課程 坂本 更紗

私は現在、奈良市のリハビリ病院に務めており、入院患者様の治療を行っています。

「歩きたい」「家に帰りたい」と様々な患者様やご家族様の希望に理学療法士としてどこまで応える事が出来るのか、知識や技術不足で応える事が出来ていないのではないかと悩み不安になる日々です。自分の選択が正しいか分からずに立ち止まる事も多々あります。そんな時「一番辛いのは患者さんやで」と在学中に言われた先生の言葉を思い出します。この言葉を思い出すと、患者様の状況を変えるには自ら考え行動していかなければ始まらないと思えます。白鳳短期大学では本当に様々な経験を仲間としてきました。先生方からは時に叱られ、励まされ様々な事を学びました。そんな濃い3年間で乗り越えたからこそ、今でも沢山助けられています。この経験が無駄にならない様に、今自分に出来ることを精一杯頑張り、患者様の気持ちに寄り添うことが出来る理学療法士を目指します。



私は社会人になり、作業療法士という仕事が大好きになりました。学生の頃はなぜ自分は作業療法士になりたいのかと考えることもありました。しかし、1年目で担当させていただいた、ある認知症の患者様で、なかなか心を開いてもらえない方がいました。悩んでいたとき、ふと白鳳で学んだ【作業を通じたコミュニケーション】を思い出し、以前その方が好んでいた編み物を共に行うことで徐々に心を開いてくれ、編み物が完成した際には「ありがとうね。」と泣いて喜んでくれました。その患者様からの暖かい言葉や信頼関係を実感できたとき、心から作業療法士になってよかったと思えました。社会人になり、実際に患者様と触れ合うことで不安になることもありますが、作業療法士だからできることにもたくさん触れさせていただきました。また、大学の友人・サポートしてくれる母のおかげで働くことが出来ていると思います。これからも、大学で学んだことを活かし、色々なことを経験して誰からも信頼される作業療法士になりたいです。



専攻科リハビリテーション学専攻 理学療法学課程 亀山 誠也

私はこの春から、茨木市にある総合病院に就職しました。

主に、入院患者様のリハビリを担当させていただいております。急性期から維持期まで様々な患者様の治療を行っています。また、スポーツの現場でスポーツトレーナーをさせていただいております。

専攻科では、整形疾患から循環器疾患など多くの分野を深く学べたのではないのかと思います。

臨床現場で感じることは、技術や知識だけでなく他職種とのコミュニケーションをとり患者様と共に協力して目標を目指すことがとても重要だと感じます。

これは、学生時代に「一つのチームで同じ目標に協力する」ことを国家試験対策や卒業研究の時に苦しいことなどありながらもクラスで協力することが出来たからだと思います。

まだまだ分からないことも多々あり、臨床現場やトレーナー現場で知識・技術が足りないと感じることが多いですが、職場の方々に恵まれ、先輩方からアドバイスをいただき、その方にできることを考えて患者様と共に歩んでいける理学療法士を目指していきたいと思っています。



私は今年の春に卒業し、奈良県橿原市にある総合病院に就職しました。現在、言語聴覚士として勤務しており、急性期から回復期まで様々な患者様のリハビリをさせて頂いています。白鳳短期大学では理学療法学課程を経て言語聴覚学課程に進学しました。

在学中の4年間は講義や実習、国家試験対策と大変な日々ではありましたが、同じ目標に向かって協力し、励まし合える仲間が居たからこそ最後まで頑張れたと思います。この在学中の経験は臨床の場においても役立っており、1人の患者様に対し、様々な職種が協力し合い同じ方向を向いて進んでいくことの大切さを実感しています。

臨床の場において、摂食嚥下障害の患者様を担当させて頂く機会が多いのですが、急性期ではベッド上で食事を摂取される方が多いため、ベッド上でのポジショニングを行うにあたって理学療法学課程で学んだことが活かされているのではないかと思います。

しかし、わからないこともたくさんあり知識や技術の不足を痛感する日々ではありますが、先輩方に相談しアドバイスを頂きながら成長し、患者様のことを一番に考え、共に歩んでいける言語聴覚士を目指していきたいと思います。



地域看護学専攻 西口侑希

私は現在、奈良県内で保健師として働いています。保健センターに務めており、乳幼児健診やその後のフォロー、特定保健指導、小学生に向けた防煙教室など様々な事業を担当させて頂いています。子どもから大人まで様々な対象の事業を経験する中で、その人に合った対応を考えることに非常に難しさを感じています。

気づけば社会人として、そして保健師として半年以上も経ちました。就職当初を思い出すと、やっと保健師として現場に立るといふ嬉しさとともに、電話対応すら不安でこれからやっていけるのかな…という状況でした。しかし、先輩方に助けてもらいながら日々頑張っています。まだ現在は、任された仕事をこなしていくことに必死ですが、目の前にいる地域の方と向き合いながら、地域全体を見ることが出来る保健師になれるよう今後さらに勉強と経験を積んでいきたいです。



白鳳短期大学 専攻科助産学専攻を卒業し、もうすぐ1年が経とうとしています。私は現在、病院で助産師として働いています。お産に関わることはもちろん、混合病棟のため、看護師としての役割も学ぶことができ、日々学びのあふれる職場で奮闘しています。みなさんが考えている通り、就職はゴールではなくスタートです。新しい環境に置かれることになるため、正直、楽しいことややりがいを感じるばかりではありません。

責任を背負い、自分で学ぶ姿勢を持つことが大切だと実感する毎日です。卒業すれば、医療職という同じ立場になります。患者さんに対して、自分ができる精一杯を尽くせるよう、一緒に看護力を高めていきましょう。

